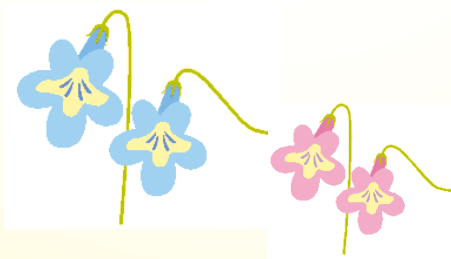


顔のみえる緩和ケアチーム



慶應義塾大学病院 緩和ケアチーム

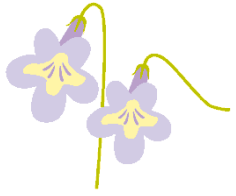


藤澤大介、橋口さおり、竹内麻理、木村理恵子、須山郁子、金子健、蛇口さとみ、朴順禮
安達昌子、吉川ひろか、深田淳一、小池直義、辻哲也、国枝悦夫、白波瀬丈一郎



施設概要

- 慶應義塾大学病院
 - － 東京都新宿区信濃町35
- 平均外来患者数3,970人/日（平成19年度）
- 病床数1056床
- 特定機能病院
- 東京都認定がん診療病院



緩和チームの発足と発展

- 1997年～ 疼痛ケアチーム
 - －ペインクリニック麻酔科医＋療養支援室看護師
 - －癌性疼痛研究会
- 2007年夏～ 開設準備
 - －麻酔科医＋療養支援室看護師＋精神科医
- 2007年11月28日：緩和ケアチーム正式承認
 - －緩和ケアカンファレンス・緩和医療研修会
- 2009年度： 緩和ケア外来開設予定



チームメンバーとチームの活動

コア・メンバー

麻酔科医 ・ 精神科医

療養支援室看護師 ・ 臨床心理士

合同カンファレンス

連絡
カンファレンス

follow-up

コンサルテーション

リハビリ科医

放射線科医

薬剤師

在宅医療医

内科・外科ほか...

<随時ミーティング>

主治医チーム

外来包括看護部



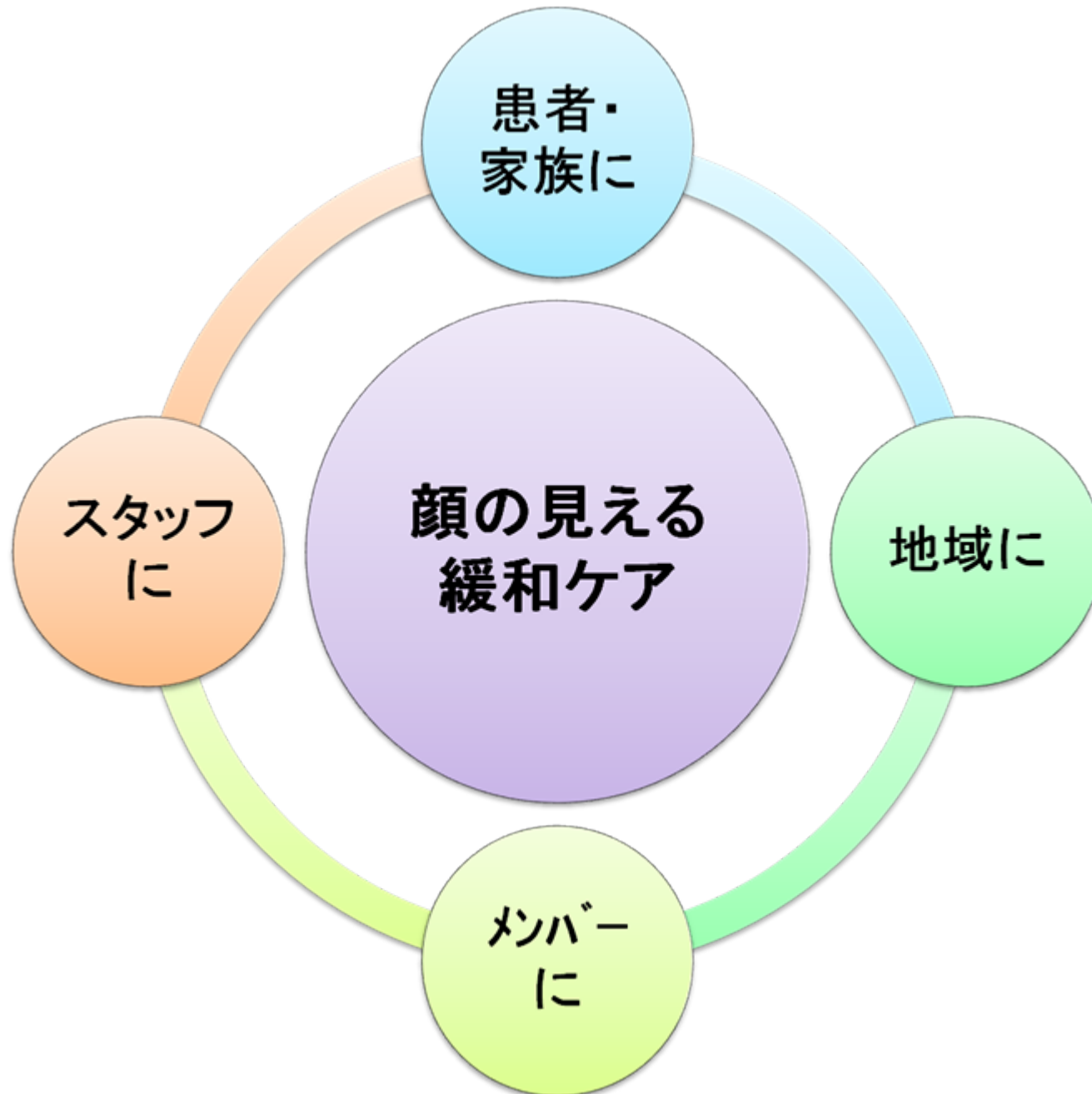
対象となる患者さん

- 当院に主治医がいるがん患者さん
- 病期は問わない
- 入院患者さん＋外来フォローアップ から開始
- がん診療連携病院として、地域の外来患者さんの受け入れを準備中



活動内容

- 疼痛をはじめとする身体症状の緩和
- 精神状態の評価と介入
- 療養環境の支援 と 地域資源との連携
- 病状説明と治療方針の意思決定のサポート
- 患者さん・ご家族・スタッフのコミュニケーションの調整



患者さん・ご家族に顔の見える 緩和ケアチーム

- 顔の見えるホームページ
- 紹介パンフレット（名前と連絡先入り）
- 包括的なチェックシート
- 病状説明への立会い



スタッフに顔の見える緩和ケアチーム

- 緩和ケアニーズ調査
- 院内研修会（緩和医療研究会・緩和ケア研修会）
- 医師でも看護師でも記入できる依頼用紙
- 緩和ケア資料集の配布
- カンファレンス（病棟・外来包括）
- 病状説明への立会い



医師でも看護師でも記入できる依頼用紙

● チェック項目

- 依頼目的
- 希望の介入形態
- 現在の病状・治療
- 患者・家族への説明
- 身体症状
- 精神症状
- 社会支援ニーズ

緩和依頼情報シート

項目に記入、およびチェック、または○をしてください。

依頼日		年		月		日			
患者番号		科名		病棟					
氏名		サイン		介入希望					
生年月日				<input type="checkbox"/> 直接介入 <input type="checkbox"/> 家族への介入 <input type="checkbox"/> コンサルテーション					
依頼内容		原疾患治療歴および現在の治療		治療歴		現在			
		手術		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
		化学療法		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
		放射線療法		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
		ホルモン療法		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
		その他 ()		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>			
疾患名		今後の方針		<input type="checkbox"/> 慶應病院での治療 <input type="checkbox"/> 慶應病院での緩和ケア <input type="checkbox"/> 在宅療法への移行 <input type="checkbox"/> 転院 <input type="checkbox"/> 未定					
stage		I		II		III		IV	
説明の有無	内容	患者		家族		説明内容			
	病名告知	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>					
	状況説明	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>					
	予後	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>					
問題となる項目に○をしてください。特に問題となる箇所には◎をしてください。									
身体精神症状	痛み								
	だるさ								
	吐き気								
	睡眠障害								
	ストレス								
	息切れ (呼吸苦)								
	もの忘れ (認知機能障害)								
	食欲不振								
眠気									
患者の不安	がんという病気自体								
	性的な問題								
	自分のこころの状態								
	治療効果								
	主治医や医療スタッフとの関係								
	家族の将来								
病気にうまく対処できるかどうかということ									
自らの生と死									
つらいからだの症状									

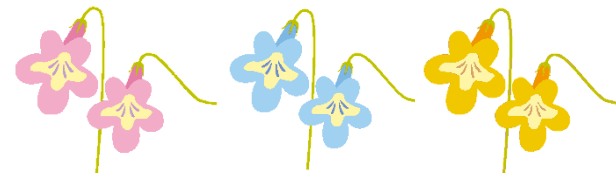
地域に顔の見える緩和ケアチーム

- 合同カンファレンス
 - 院内カンファレンスへの、在宅医療医の参加
- メールリスト
 - 在宅医療医を含めたメールリストと情報提供
- がんプロフェッショナル養成プラン
 - 医師：緩和医療専門医養成（大学院）
インテンシブコース（初級・アドバンス）
 - 看護師：修士課程
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会



メンバー同士の顔が見える緩和ケアチーム

- 9:30集合のstanding meeting
- どの職種もプライマリに対応できる能力を育成
 - どの職種も疼痛管理をプライマリにできる
 - 麻酔科←→療養支援ナース←→精神科医
- スタッフ定例ミーティング
 - Support Team Assessment Schedule (STAS)で情報共有
 - デス・カンファレンス



顔の見えるホームページ

- 部門ごとにメンバーの顔写真と名前を掲載
→ 患者さんにも医療者にも「顔の見える」ように！！！！
- 月毎にチーム便りを更新
→ チームの活動やメンバーの思いが伝わるように！

<http://www.keio-palliative-care-team.org/>



患者さん・ご家族の方へ 医療関係者の方へ

緩和ケアチームとは ・緩和ケア外来 ・あなたの痛み、あきらめないで！ ・リンク

HOME > 患者さん・ご家族の方へ > 緩和ケアチームの紹介 > 精神・神経科

緩和ケアチームの紹介

精神・神経科

がんをはじめとする重大の病気は、心身両面に大きなストレスをもたらします。なぜ自分がこんな目にあうのか、これからどうしたらよいのか、家族や友人にどう話したらいいのか、など、誰にも言えずに抱え込んだり、やり場のない気持ちを感じることもあるでしょう。病気のご本人だけでなく、ご家族も思い悩まれることが少なくありません。

ストレスは次のような症状をもたらします。
「不安」の症状 … 心配事が頭から離れない、考えたくないのに寝なことを考えてしまう、いらいらする、怒りっぽい、集中できない、そわそわして気持ちが落ち着かない、眠れない、めまいや動悸がする … など
「落ち込み」の症状 … 気持ちが落ち込む、何をしても楽しめない、やる気がでない、集中できない、物事が決められない、自分を責めてしまう、食欲がでない、だるい、生きるのが面倒になる … など

白浪 利丈 医師

緩和ケアチームの精神・神経科医師は、こういった心の状態に対するケアを行います。

精神・神経科の診察は、特殊なことをするわけではありません。治療のこと、家族のこと、仕事のことなど、悩んでいること、困っていることを思いつづきまにお話ください。話をすることが苦手な方もいらっしゃると思いますが、たくさん話すことが治療の目的ではありません。ご家族の方のご相談も受けします。

緩和ケアチームの紹介

- 緩和ケアチームとは
- サポートを希望するには
- 麻酔科ペインクリニック
- 精神・神経科
- 看護部門
- 放射線科
- リハビリテーション科
- 薬剤部
- 在宅・地域連携部門

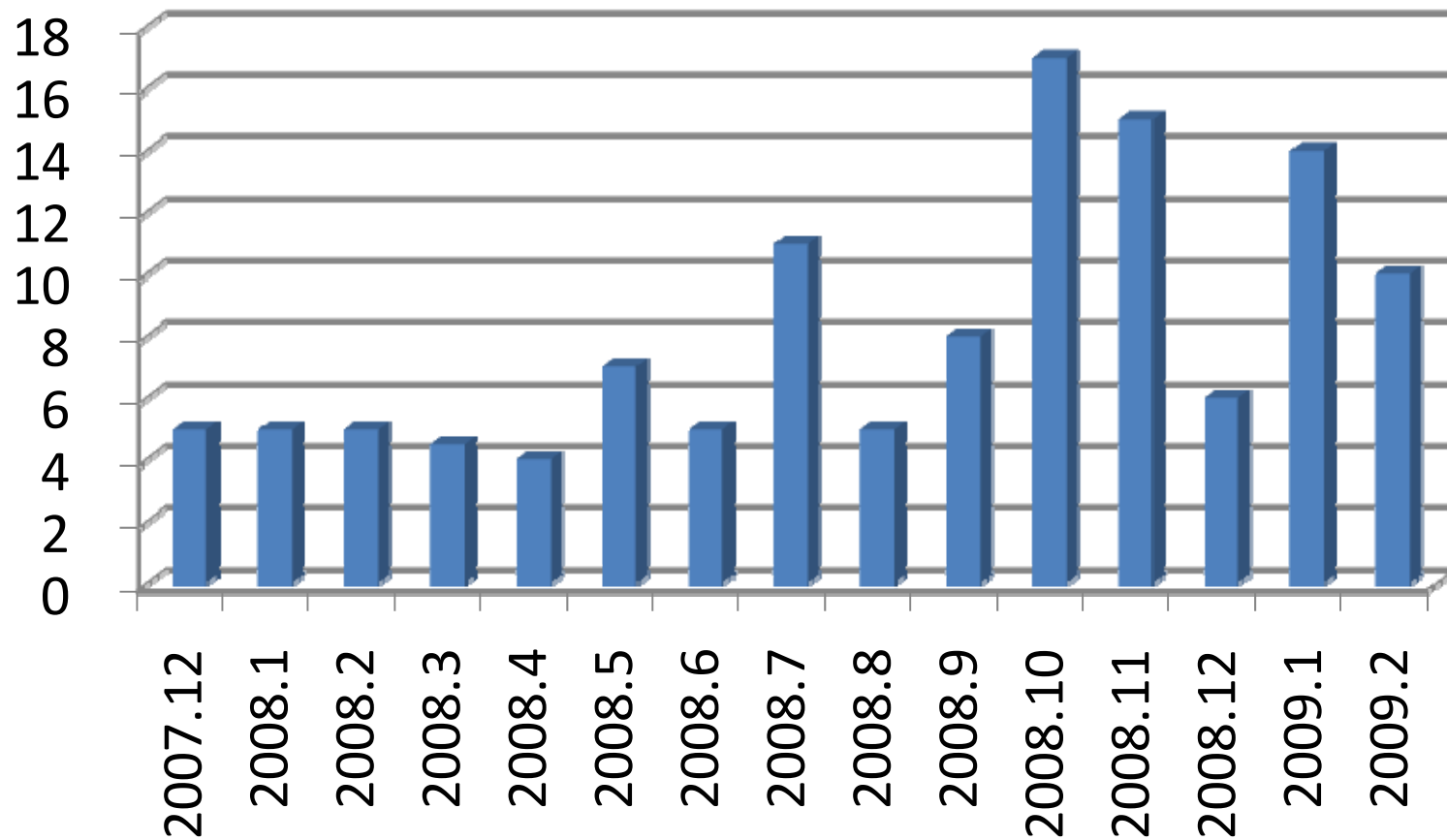


緩和ケアに関連する研究成果

- Kimura R et al. Palliat Support Care. 2005
 - 痛みを3日以内にさげることがQOL向上に重要
- 朴ほか.日本緩和医療学会. 2008
 - 医師の30%、看護師の40%が緩和ケアに不満足
- Fujisawa et al. Oncology 2008a
 - 疼痛の軽減が心理的苦痛の軽減と強く相関
- Fujisawa et al. 2008b (submitted)
 - 入院患者の20%に強い痛みが残存
 - 2つ以上の症状併存が抑うつリスクを増加

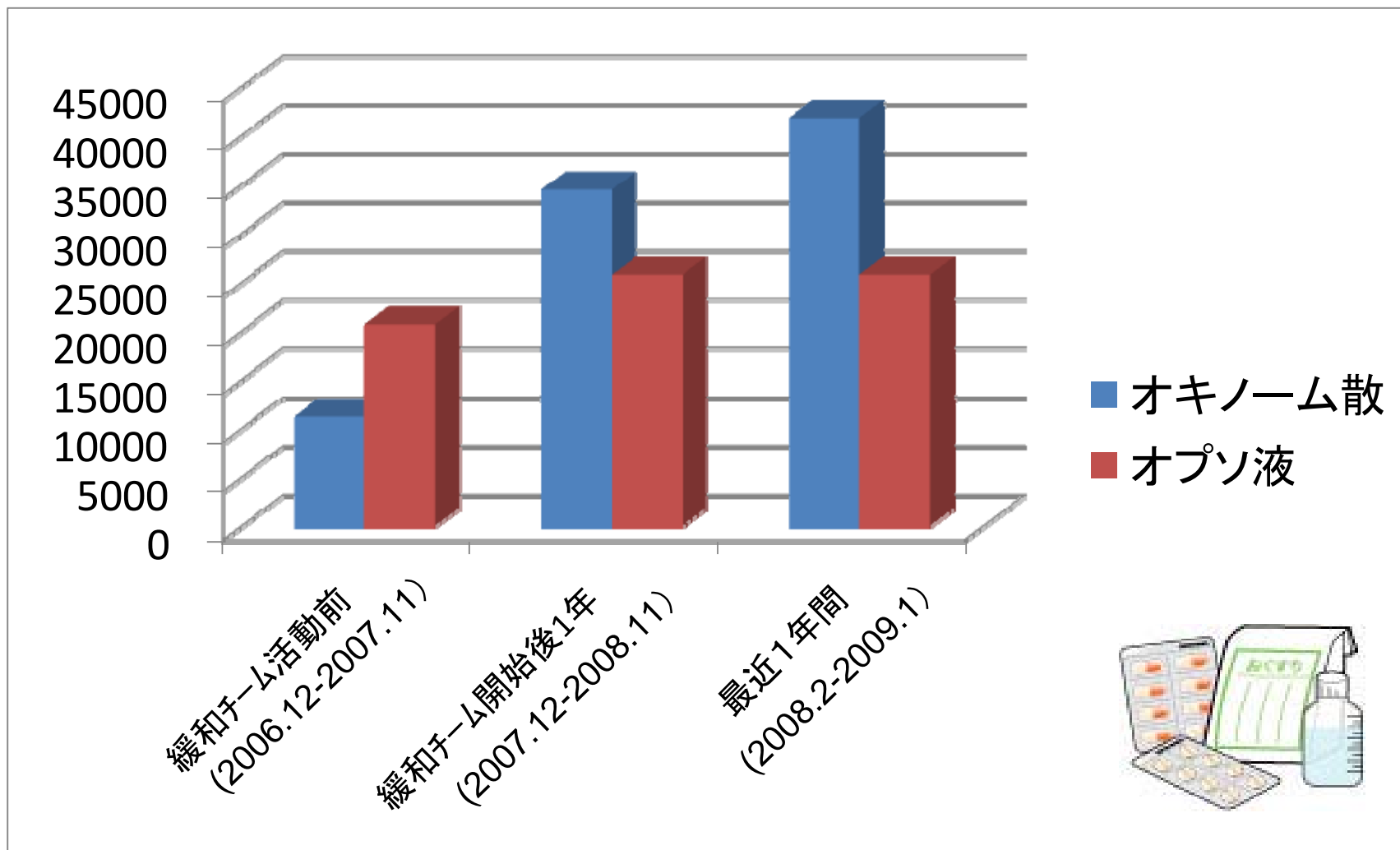


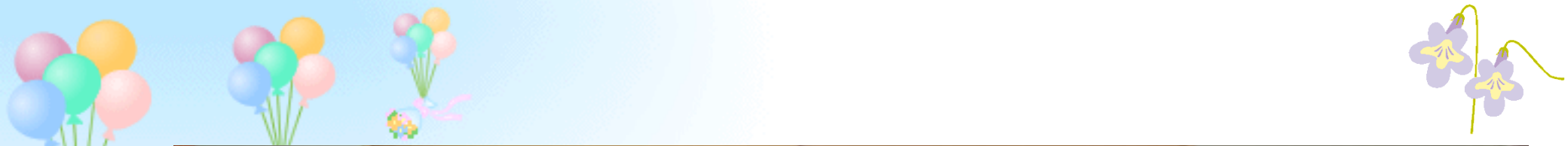
緩和チームへの依頼実績

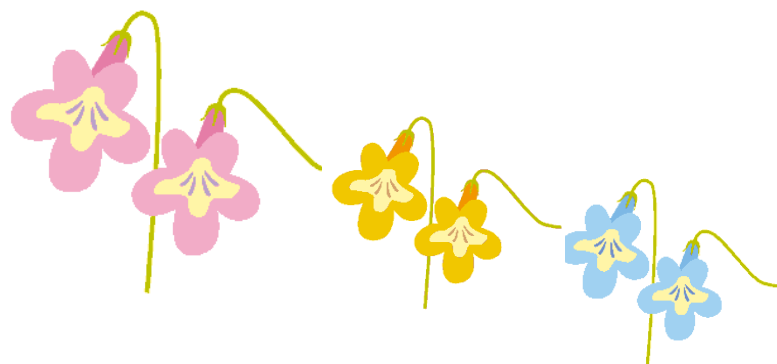




医療用麻薬使用量の伸び







**顔の見えるつながりの中で、
誰もが緩和ケアを受けられる、
誰もが緩和ケアを提供できる、
そんなあり方を私たちは目指しています**